

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

I 法人の概要（平成 26 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

2 設立年月日

昭和 51 年 3 月 25 日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,483,143 千円

5 北九州市の出捐金

1,750,000 千円（出捐の割合 70.5%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	10 人	0 人	1 人	9 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
職 員	44 人	7 人	1 人	36 人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、本市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 平成 25 年度事業実績

1 総 論

西日本地域における大規模コンベンション開催の拠点として、理想像である「北九州メッセ」の実現を目指し、当協会が産業の活性化や地域のにぎわいづくり等において中心的役割を果たしていくため、前年に引き続き以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・主催事業を有機的に連携して実施することにより、産業・貿易の振興、国際交流の推進を図る。
- ・コンベンションの誘致・開催により、北九州地域のにぎわいづくりに積極的に取り組む。
- ・お客様の満足度の向上と、より効果的・効率的な管理運営を行い、あわせて経費の節減に努める。

【概況】

平成 25 年度は、多くの市制 50 周年記念事業の開催などの効果もあったほか、積極的に大型コンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。

これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数ともに前年度並みを確保した。

また、収支についてもある程度の黒字を確保し、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、今後は市制 50 周年記念事業などの一時的な増収要因が無くなり、また、イベント・コンベンション等の福岡市への一極集中の進展、さらに周辺他都市では、新たに同様な施設の整備計画が多数同時で並行して進行するなど、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【指定管理計画の達成状況および次期指定管理の指定獲得について】

平成 25 年度は、概ね目標を達成した。施設別に見ると、展示場新館（国際展示場）が、利用件数 170 件・稼働率 78.2%（目標：140 件・80%）、国際会議場が、513 件・88.3%（目標 775 件・90%）であった。

さらに、施設利用者数については、89 万人と、現行の指定管理期間における最高値（これまでは平成 24 年度の 79 万人）を記録した。

また、平成 26 年度から始まる次期 5 年間の管理者として、指定を改めて受けることに成功した。

このため、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

【平成 25 年度の取り組み】

① 主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

② コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

市制 50 周年を迎え、小倉中心市街地を舞台にした様々なイベントが開催された。この好機に小倉駅新幹線口の地元や関係団体との連携を強化し、当該地区のにぎわいづくりに活用するよう、さまざまな取り組みを行った。

⑤ 施設利用者の利便性向上

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保するため、各施設・設備について、安全を最優先に老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努めた。

⑥ 西日本総合展示場本館の改修等

本館の築 36 年経過による劣化等に対応するための維持補修に加え、前年度に引き続き耐震診断調査を実施した。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

(1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の方針や施策との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

展示会の魅力の向上に努めるとともに、内容のリニューアルや新企画コーナーの実施など、事業ごとに様々な対策を講じた結果、来場者は増加した。

今後も、経費削減や事業のリニューアル、リストラクチャリング等を強力に推し進め、新規企画の実施や新たな主催事業の立ち上げに向けて調査研究を継続する。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会 () 内は 24 年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア 2013	5月2日 ～6日	49,105人 (49,172)	215社・団体 (225)
西日本製造技術イノベーション 2013	6月12日 ～14日	15,769人 (15,696)	47社・団体 (43)
第39回ふくおか産業技術振興展			28社・団体 (32)
第35回西日本陶磁器フェスタ	9月13日 ～17日	56,931人 (49,284)	195社 (192)
日本陶芸展九州展			150点 (0)
エコテクノ 2013	10月16日 ～18日	29,651人 (27,588)	134社・団体 (173)
エコ・ベンチャー・メッセ 2013			38社・団体 (49)
中小企業テクノフェア in 九州 2013			46社・団体 (43)
九州・国際テクノフェア 2013			20社・団体 (16)
再生可能エネルギー先端技術展 2013			20,051人 (12,404)
P.P.C. 2013 第15回西日本国際福祉機器展	11月22日 ～24日	20,712人 (25,546)	108社・団体 (125)
合計	11事業	192,219人 (179,690)	914社・団体 (973)

※ 日本陶芸展の九州開催は 16 年ぶり、北九州市開催は 26 年ぶり 協会主催は初

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 大型コンベンションとの同時開催

共通のテーマを持つ展示会とコンベンションを同時開催することにより、その相乗効果による商談や交流機会の促進を図り、産業振興やにぎわいづくりの創出に取り組んだ。

- 「エコテクノ 2013」他、同時開催事業と「環境未来都市国際会議」との連携開催

4つの国際会議からなる「環境未来都市国際会議」は、エコテクノとの同時開催を行ったことで海外からの来場者が多数あり、例年よりも国際色の強い見本市となった。

イ 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

- 「西日本総合機械展」をリニューアルし、「西日本製造技術イノベーション」として開催
機械・金属加工分野の工作機械を中心に開催してきた「西日本総合機械展」であったが、他の成長分野への参入を模索する地元企業のニーズの変化を受け、対象を拡げ、様々な製造技術分野における高度な取り組みを紹介していくこととし、名称を「西日本製造技術イノベーション」と改め開催した。

- 5事業を同時に開催

例年秋季に二期に分けて開催していた「エコテクノ／エコベンチャーメッセ」、「中小企業テクノフェア」と「再生可能エネルギー先端技術展」、「九州・国際テクノフェア」を同時開催し、来場者の増加を図った。

また、「エコテクノ」と「再生可能エネルギー先端技術展」は、一つの展示会として開催することを関係者間で合意し、2015年からの一体開催にむけて協議をすすめていく。

- 「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

自動車、トラック、船舶等の輸送・低炭素化を図る技術を紹介する「次世代輸送機器・物流技術展」をエコテクノのフェア・イン・フェアとして開催した。

- 「西日本陶磁器フェスタ」の会期に合わせ、「日本陶芸展九州展」を同時開催。

現代日本を代表する陶芸作品を一堂で紹介する「日本陶芸展九州展」と、「西日本陶磁器フェスタ」を同時に開催した。同時開催による相乗効果によって、入場者数5万人超を達成した。

- 九州・国際テクノフェアの発展的解消

「ICT」を中心とした「九州国際テクノフェア」について、IT業界の営業手法の変化等もあり出展社の漸減傾向が続いていた。

そこで、様々な活性化策を実施してきたが、出展社の減少に歯止めがかからず、規模の拡大も見込めないため、平成25年度の開催を最後に当協会主催の他の展示会へ統合することとした。

ウ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力した。

- エコテクノ 2013 海外出展

中国・大連市の政府関係者、企業関係者が来日し、日中環境技術紹介セミナーが開催され、

中国側のニーズを示すとともに、北九州市内企業の技術の紹介が行われた。

また、韓国・大田市にアプローチして6社の出展を得るなど、民間レベルのビジネス交流に成功した。

エ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高めた。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2013 ビジネスマッチング事業

大手企業OBの技術者で構成する「NPO法人北九州テクノサポート」による、中小企業テクノフェア出展社と地元企業とのビジネスマッチングを促進した。

○ 製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

展示会の新たな魅力づくりとして「西日本製造技術マッチングフェア」、「ふくおか産業技術振興展」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」の出展社を対象に「製造技術マッチングフェア」を開催した。

オ 市制 50 周年記念事業への対応

当協会的主催事業については、すべて市制 50 周年記念事業として開催、タイトルの冠付およびポスター、ダイレクトメールなどの印刷物へのロゴマークの掲載など、告知協力を積極的に実施した。

- (2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(122 テーマ、参加者数：6,397 人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) アジアとの連携・交流

ア アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

エコテクノに、韓国大田広域市の福岡通商事務所を通じて6社が出展した。

イ 北九州市アジア低炭素化センターとの連携

エコテクノ会期中、アジア低炭素化センターと協力して、UNIDO（国連工業開発機関）のビジネスマッチング事業を実施、モンゴル、ラオス、カンボジアの政府関係者とエコテクノ出展社とのマッチングを行った。

(3) その他の連携・交流

ア 環境ビジネス展示会との連携強化

以前より連携を進めている仙台（東北エコプロダクツ）と連携して、環境省に対して「地球温暖化防止国民運動」をテーマとして地方環境展を活用した情報発信の企画提案を行い、採用された。

今回は、環境省が進めている政策を中心に、地元企業やNPO、家電メーカーなどの協力を得て、省エネ、屋上緑化、森林資源の活用などの低炭素化にむけた省エネルギー活動の紹介を

行った。

イ 展示会・商談会を活用した中小企業のビジネス支援（再掲：P.5 参照）

中小企業テクノフェア IN 九州において、北九州の大手企業OBで構成する技術者集団「NPO 法人北九州テクノサポート」との連携により、「ものづくりの街」北九州の主要企業に出展企業について事前 PR、および会期中のビジネスマッチングを行った。商談成立 10 件、商談成立見込み 6 件、共同研究開発 11 件であった。

(4) 新規見本市の開発

ア 安心・安全の未来展

日刊工業新聞社との共同主催にて、最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介するとともに、北九州市との共催で一般市民の防災意識の啓発を図るコーナーの設置や、セミナーなどを予定。2015 年秋の開催にむけて、同社と協議を行った。

イ 第 3 回北九州医歯工連携研究会

「製造技術イノベーション展」において、北九州医歯工連携研究会と、モノづくりの技術を応用して進められる「医歯工連携・医療機器産業参入」をテーマに、記念セミナーを開催した。

また、「生産現場におけるコーチング」をテーマに、テクニカルセミナーを行った。

ウ ヘルスケア展

国の「地域新規成長産業戦略」に位置づけられた「ヘルスケア産業」について、「西日本国際福祉機器展」と共同開催するための準備を行った（平成 26 年度に実施予定）。

会議・大会等

(1) 都市間の M I C E 誘致競争が年々激化している中、北九州市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める各種の会議・大会等を誘致するため、積極的かつ計画的に誘致活動を行った。

北九州市の開催助成金制度を活用した誘致活動では、大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等を多数誘致することができ、平成 24 年度の開催件数を大きく上回り、過去最高となった。

なお、J N T O（日本政府観光局）が作成した「M I C E 開催による経済波及効果測定モデル」によれば、25 年度の当協会の誘致案件のみによる経済波及効果（間接 2 次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は 85 億 11 百万円であった。

◆年度別開催件数の推移

（単位：件）

区 分	国際	全国	その他	合計
25 年度	37	102	89	228
24 年度	55	83	70	208
23 年度	38	61	67	166

◆年度別参加者数の推移

(単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
25年度	20,016	124,997	53,130	198,143
24年度	31,584	95,654	55,645	182,883
23年度	24,964	56,833	61,930	143,727

(2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、過去最高の228件の開催となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果として、26年度以降に合計173件(26年4月1日現在)のコンベンションが予定されている。

◆平成25年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催時期	会 場	規模(国・人数)
国際	e-CASE&e-Tech, ISEP2013, ISBM2013	H25年 4月	国際会議場	800人 (37カ国 690人)
	誘導泳動現象ワークショップ	H25年 4月	学術研究都市 A I M	310人 (6カ国 72人)
	北東アジア標準協力フォーラム	H25年 7月	国際会議場	432人 (3カ国 240人)
	I C G E T	H25年 8月	北九州市立大学 北方キャンパス	400人 (9カ国 150人)
	第47回日本てんかん学会	H25年 10月	国際会議場 A I M	3,600人 (5カ国 24人)
	International Workshop and Conference on re-SHAPING urban coastal land-SCAPES for the Hibikinada Area in Kitakyushu 2014(JAPAN)	H26年 2月	北九州学術研究 都市	480人 (6カ国 375人)
全国	第1回北九州市市長旗争奪少年少女剣道大会	H25年 4月	市立総合体育館 若松体育館	3,000人
	第34回母乳育児学習会 in 北九州	H25年 6月	国際会議場	1,200人
	第10回日本うつ病学会総会	H25年 7月	国際会議場 A I M	2,000人
	第17回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流	H25年 9月	市立総合体育館 市内各地	4,172人
	第67回全国レクリエーション大会・福岡大会 3B体操全国交流大会 インディアカ全国交流大会	H25年 10月	市立総合体育館 若松体育館	8,215人

	平成 25 年度全国小学校社会科研究大会	H26 年 2 月	国際会議場	1,354 人
九州	日本褥瘡学会九州地方会学術集会・教育セミナー	H25 年 5 月	アルモニーサンク ソレイユホール	1,600 人
	第 101 回日本消化器病学会九州支部例会	H25 年 6 月	国際会議場 A I M	2,000 人
	平成 25 年度九社連老人福祉施設協議会職員研究大会	H25 年 7 月	西日本総合展示 場新館	4,096 人

- (3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は 24 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in こくら (旧コンベンションサロン「北九州泡盛会」)	H25 年 6 月 H25 年 11 月	延べ 430 人 (延べ 540 人)
夏休み子どもシアター	H25 年 7 月 28 日	343 人 (354 人)
第 39 回将棋の日 in 北九州	H25 年 11 月 16～17 日	812 人
冬休み子どもシアター	H25 年 12 月 22 日	449 人 (293 人)
第 13 回全国女性俳句大会 in 北九州	H26 年 3 月 1～2 日	1,578 人 (1,514 人)
第 22 回北九州将棋フェスティバル	H25 年 3 月 15～16 日	748 人 (837 人)

貸館利用者の誘致・営業強化

- (1) これまでに利用がなかった期間の施設利用の促進や、利用事業者の集客を支援する取り組みは顧客から一定の評価を得ることが出来た。

あわせて、既存の顧客の定着化を図ることに加え、様々な要望を持った顧客に対し、ニーズに応えられるようにユーザーの視点に立った開催ノウハウの提供、および集客サポートなどの企画提案型の営業を実施することで、他施設との差別化を図り、展示場の利用増に取り組んだ。

- (2) 主な取り組み実績は、以下のとおり

ア 大型展示会・イベント（本館・新館大展示場利用）の誘致件数は、前年度比で 10% 増となる 33 件に達し、集客増加につながった。

イ 「北九州 EXPO フリマ」や「MONO CAFE」を他のイベントと同時に開催することにより、同時開催のイベントに対して、売上及び来場者数の増加といった相乗効果をもたら

し、あわせて駐車場の利用台数増にも貢献した。

ウ バンダイやタカラトミー、円谷プロダクションといったコンテンツ企業や地元TV局といったメディアとの関係が深まり、次年度以降もこれらの企業と連携した企画が実施できる体制を築いた。

エ 「ウルトラマンイベント」を共催することにより、「ウルトラマン・プレシャス・ステージ」といった全国ツアーのショーイベントを誘致することが出来た。

◆25年度 主な新規イベント・展示会等誘致実績

催事名	会期
マジック ザ ギャザリング グランプリ 北九州	H25年8月23日～H25年8月25日
HKT48「メロンジュース」劇場盤握手会	H25年9月28日
SKE48「美しい稲妻」全国握手会	H25年9月29日
2013 ウェルディングフェスタ in 北九州 (マツモト産業)	H25年10月26日～H25年10月27日
2013 サンキュードラッグお客様感謝祭	H25年11月2日～H25年11月3日
モンスターハンターフェスタ 2013	H25年11月10日
図書館ブックフェア (トーハン)	H25年11月20日～H25年11月21日
九州の食EXPO	H26年2月10日～H26年2月11日
YMF Gビジネスマッチングフェア 2014	H26年2月20日
第5回BMWエキサイティングフェア	H26年2月22日～H26年2月23日
2014九州こいけ市 (小池酸素工業)	H26年3月14日～H26年3月15日
ウルトラマンプレシャスステージツアー	H26年3月23日
パトスピフェスタ・ツアー パトスピ・チャンピオンシップ 2014 九州エリア大会	H26年3月29日～H26年3月30日

◆営業 閑散期対策・自主企画・運営支援事業 (H25年度)

名 称	日 程	市との関係 ☆=50周年記念事業	入場者数
トミカ博 in 北九州 2013	7/26～28・8/2～4	☆後援	58,105名
Kitakyushu MONO CAFE	9/22～23	☆後援/協賛 ヒュー マンメディア財団	5,000名
こくら de フリマ	9/23	☆共催	6,000名
アイススケート フェスティバル	11/23	後援	700名
ウルトラクリスマス モノレール	12/20	☆	196名

お正月だよ！ ウルトラマン全員集合 in 北九州	12/27～1/5	☆後援	24,068名
ニューイヤーフェスタ in 北九州 2014	1/2～1/5	☆後援	23,491名
九州の食EXPO	2/10～2/11	共催	12,426名
北九州EXPOフリマ	2/11	—	5,000名
北九州 ソーシャルビジネスメッセ	2/11	協力	同上
合 計			134,986名

広報・宣伝、地域連携

- (1) 広報・宣伝活動として、インターネットやリーフレットなど、様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、施設利用者および来場者の掘り起こしに取り組んだ。
- (2) 地域連携として新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会（再掲）や地域清掃イベント等を行うなど、地域の一体感形成に向けた活動やにぎわいづくりにも取り組んだ。
さらに、JR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

- (1) 西日本総合展示場本館・新館及び北九州国際会議場について施設管理者として公正かつ適正・効率的な管理運営を行うとともに、利益として得た余力の中から、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。
また、閑散期における展示場および会議場の利用者増および収入増を目的に、利用料金の見直しなどについての検討にも着手した。
- (2) お客様満足度の向上については「サービスの向上」を主眼に、利用に関する規程や料金等、重要事項の説明や事例紹介の際にタブレット型情報端末を活用することにより、利用希望者への説明をより分かりやすく円滑に行うことが出来た。
また、施設面では利用者の要望に沿って、公衆無線LANのアクセスポイントを新館、A I M3階、本館それぞれに設置し、夏からは全施設での本格運用を開始した。
- (3) 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	67	240	65.8	32
24年度	82	251	68.8	27
23年度	78	238	65.0	18

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	170	284	78.2	50
24年度	162	282	77.3	45
23年度	141	259	71.5	38

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
25年度	513	317	88.3	7
24年度	588	320	88.9	7
23年度	641	319	88.6	7

(4) 施設管理等

施設管理面では、お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

- *全館共通 : 無線LANアクセスポイント運用開始
- *展示場本館 : 雨漏り防止と消防設備の改修等工事、および耐震診断等
- *展示場新館 : 鍵管理システム・構内電話交換機等更新
- *国際会議場 : カーペットおよび椅子等備品類更新等

(5) 指定管理

北九州国際展示場及び北九州国際会議場の指定管理については、北九州市より、効率的な施設運営や地域の振興などの成果や取組姿勢について評価を得ることができた。

また、平成26年度からの5年間、改めて指定管理者としての指定を受けることが出来た。

Ⅲ 平成 25 年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成 26 年 3 月 31 日現在（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	244,911,313	253,335,928	▲ 8,424,615
受取手形	0	0	0
未収金	32,811,984	27,510,205	5,301,779
繰延税金資産（短期）	2,444,000	2,151,000	293,000
仮払金	11,652,657	7,079,277	4,573,380
流動資産合計	291,819,954	290,076,410	1,743,544
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	456,099,934	485,052,943	▲ 28,953,009
建物付属設備	4	21	▲ 17
構築物	563,901	789,361	▲ 225,460
機械及び装置	48,981,068	57,567,649	▲ 8,586,581
基本財産引当資産	860,621,218	860,254,896	366,322
減価償却引当資産	1,116,876,441	1,079,057,917	37,818,524
基本財産合計	2,483,142,566	2,482,722,787	419,779
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	150,643,549	142,456,518	8,187,031
減価償却引当資産	32,589,087	30,739,822	1,849,265
目的事業引当資産	625,058,525	625,220,525	▲ 162,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震診断費用準備資金積立資産	10,416,000	40,000,000	▲ 29,584,000
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
企画展開催費用準備資金積立資産	0	2,625,000	▲ 2,625,000
施設利用促進等費用準備資金積立資産	0	13,375,000	▲ 13,375,000
施設設置費用準備資金積立資産	13,000,000	0	13,000,000
施設利用促進設備費用準備資金積立資産	27,000,000	0	27,000,000
特定資産合計	941,357,161	937,066,865	4,290,296
(3) その他固定資産			
建物	3,099,916	3,210,481	▲ 110,565
構築物	2,619,869	2,834,573	▲ 214,704
車両運搬具	3,318,867	4,924,348	▲ 1,605,481
什器備品	366,221	9,203,850	▲ 8,837,629

ソフトウェア	0	199,363	▲ 199,363
繰延税金資産（長期）	264,000	309,000	▲ 45,000
その他目的有価証券	366,400	180,400	186,000
その他固定資産合計	10,035,273	20,862,015	▲ 10,826,742
固定資産合計	3,434,535,000	3,440,651,667	▲ 6,116,667
資産合計	3,726,354,954	3,730,728,077	▲ 4,373,123
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	117,254,378	133,015,450	▲ 15,761,072
前受金	19,147,627	20,478,679	▲ 1,331,052
預り金	10,034,470	17,570,550	▲ 7,536,080
仮受金	2,374,093	431,000	1,943,093
未払法人税等	23,661,300	20,000,000	3,661,300
賞与引当金	10,945,185	10,953,186	▲ 8,001
流動負債合計	183,417,053	202,448,865	▲ 19,031,812
2. 固定負債			
退職給付引当金	150,643,549	142,456,518	8,187,031
固定負債合計	150,643,549	142,456,518	8,187,031
負債合計	334,060,602	344,905,383	▲ 10,844,781
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	856,000,000	856,000,000	0
展示場設備受贈益	505,644,907	543,409,974	▲ 37,765,067
基本財産運用益	4,621,218	4,254,896	366,322
指定正味財産合計	1,366,266,125	1,403,664,870	▲ 37,398,745
（うち基本財産への充当額）	(1,366,266,125)	(1,403,664,870)	(▲ 37,398,745)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	2,026,028,227	1,982,157,824	43,870,403
（うち基本財産への充当額）	(1,116,876,441)	(1,079,057,917)	(37,818,524)
（うち特定資産への充当額）	(790,713,612)	(794,610,347)	(▲ 3,896,735)
正味財産合計	3,392,294,352	3,385,822,694	6,471,658
負債及び正味財産合計	3,726,354,954	3,730,728,077	▲ 4,373,123

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 25 年 4 月 1 日

至 平成 26 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	17,216,459	19,452,587	▲ 2,236,128
展示場設備受贈益	37,765,067	47,493,446	▲ 9,728,379
特定資産運用益	3,169,000	5,015,082	▲ 1,846,082
受取会費	4,819,500	5,250,000	▲ 430,500
事業収益	586,205,002	618,650,507	▲ 32,445,505
受取補助金等	327,321,786	335,440,954	▲ 8,119,168
受取負担金	46,765,963	42,543,197	4,222,766
雑収益	18,377,387	19,580,408	▲ 1,203,021
経常収益計	1,041,640,164	1,093,426,181	▲ 51,786,017
(2) 経常費用			
事業費	961,917,597	944,116,536	17,801,061
管理費	12,438,864	9,252,255	3,186,609
経常費用計	974,356,461	953,368,791	20,987,670
当期経常増減額	67,283,703	140,057,390	▲ 72,773,687
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他経常外収益	0	1,984,393	▲ 1,984,393
経常外収益計	0	1,984,393	▲ 1,984,393
(2) 経常外費用			
その他経常外費用	0	1,627,563	▲ 1,627,563
経常外費用計	0	1,627,563	▲ 1,627,563
当期経常外増減額	0	356,830	▲ 356,830
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	23,661,300	20,062,900	3,598,400

法人税等調整額	▲ 248,000	▲ 1,210,000	962,000
当期一般正味財産増減額	43,870,403	121,561,320	▲ 77,690,917
一般正味財産期首残高	1,982,157,824	1,860,596,504	121,561,320
一般正味財産期末残高	2,026,028,227	1,982,157,824	43,870,403
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	8,600,885	10,336,650	▲ 1,735,765
一般正味財産への振替額	45,999,630	57,220,439	▲ 11,220,809
当期指定正味財産増減額	▲ 37,398,745	▲ 46,883,789	9,485,044
指定正味財産期首残高	1,403,664,870	1,450,548,659	▲ 46,883,789
指定正味財産期末残高	1,366,266,125	1,403,664,870	▲ 37,398,745
III 正味財産期末残高	3,392,294,352	3,385,822,694	6,471,658

IV 平成 26 年度事業計画

1 総論

平成 25 年度は、これまで実施してきた積極的な誘致・営業活動の成果、北九州市制 50 周年記念イベント開催などもあって、収入の面では、展示場・会議場ともに当初予算の目標を達成する見込みである。また、収支全体で見ても、徹底したコスト削減などの効果も相まって、最終的に黒字を確保する見込みである。

ただし、当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しい状況にある。数年後には、周辺都市に、展示場やコンベンション施設の新・増設が予定されており、誘致競争が、より一層激化するものと思われる。

したがって、引き続き、誘致・営業活動等を強化し、収入増や施設稼働率の向上を図るとともに、経営の効率化を一層進め、これまで以上に自主自立の経営を確立していかなければならない。

【協会の活動】

当協会は、西日本屈指の M I C E 開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的に M I C E を推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していく。

そのため、次の 3 つの基本理念に基づき、事業を推進する。

① M I C E 開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・M I C E 研究の深化による専門性と M I C E 開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した自主事業のリニューアル
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する

② M I C E 開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・北九州地域における M I C E 開催によるビクターズインダストリー（集客産業）の積極的な推進
- ・自主事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント

に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する

③ 施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場 3 施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映

に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える

【26 年度の取組概要】

① 協会自主事業の強化

北九州市新成長戦略や国・県の産業政策の動向を踏まえながら、産業貿易の振興やにぎわい

の創出に貢献する協会自主事業を開発・推進する。

ア. 産業貿易振興型の自主事業の開発・推進

エコテクノ、インポートフェアなどの既存事業について、企画内容の充実、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを進める。

また、新たな産業やビジネスモデルの創造を支援していくため、例えば、ソーシャルビジネスや6次産業分野など、小規模であったり、採算性に乏しくてもテーマ性の高い展示会の開発を進める。

イ. にぎわい創出型の自主事業の開発・推進

夏休み・年末年始を中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、新球技場と連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

② コンベンション誘致の強化

国際・全国規模の大会・展示会の誘致や、スポーツコンベンション（大会）の展示場利用の拡大などに積極的に取り組み、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの更なる振興と賑わいづくりに貢献する。また、市のMICE開催助成金の戦略的な運用のほか、地域の文化・観光関連団体・施設との連携、他都市と連携した広域的な誘致戦略も推進する。

③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、対象エリア・業界をより広げた積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象とした賑わいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討していく。

「あるある City」、「あさの汐風公園」、「(仮称)北九州市立スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

⑤ 施設利用者の利便性向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、引き続き、施設利用者のニーズの把握と接客力の充実を図る。また、各施設・設備について、老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

⑥ 西日本総合展示場などの施設の改修等

建築後 37 年を経過する本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、耐震診断にもとづく施設改修の準備に着手する。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成 26 年度は新たな指定管理期間の初年度である。指定管理計画に掲げる目標（H26 年度：来場者数（展示場・会議場）75 万人、コンベンション誘致件数 185 件など）を着実に達成するため、計画的・組織的な取組みを進める。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成 26 年度は、「エコテクノ 2014」「再生可能エネルギー先端技術展 2014」など、10 の事業を引き続き開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

なお、長年開催してきた「九州・国際テクノフェア」については、業界の営業手法がセミナーなどに移行し、展示会の開催ニーズがなくなってきたため発展的に解消する。

《既存事業の充実》

業 名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本インポートフェア&食メッセ 2014	5月2日 ～6日	50,000人	250社
西日本製造技術イノベーション 2014	6月18日 ～20日	20,000人	60社・団体
第40回ふくおか産業技術振興展			40社・団体
第36回西日本陶磁器フェスタ	9月19日 ～23日	50,000人	200社
エコテクノ 2014	10月8日 ～10日	32,000人	215社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ 2014			40社・団体
中小企業テクノフェア in 九州 2014			50社・機関
再生可能エネルギー先端技術展 2014			110社・機関
P. P. C. 2014 第16回西日本国際福祉機器展	11月7日 ～9日	30,000人	130社・団体
ヘルスケア展【新規】			
合 計	10事業	212,000人	1,095社・他

■ 『エコテクノ』『再生可能エネルギー先端技術展』の2015年度一体化に向け準備に着手。

→九州経済産業局、福岡県、北九州市、協会の主催4者で協議し、2015年に両展示会を一体化することで合意。環境系では国内最大規模の地方展となる見込み。

■ 『西日本インポートフェア&食メッセ』で、新企画「アフリカフェア」を開催

→アフリカフェアを新規開催。普段目にすることが少ないアフリカの産物や文化、芸術を提供。また、昨年好評だったイタリア・フェアもさらに充実。

■ 『西日本陶磁器フェスタ』で、新企画「匠の工芸品セミナー」を開催

→全国で最古参の陶磁器展示会として、より一層の賑わいを図るため、新たに「匠の職人工芸品セミナー」を企画開催。

(2) インキュベーション型の自主事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、小規模でもテーマ性の高い、地域独自の展示会（ソーシャルビジネス、6次産業分野など）を開催する。また、医歯工連携など、様々なテーマのフェアインフェア型事業を行い、新規事業ニーズの探索や開発を進める。

《新規事業の検討状況》

■ 『安心・安全の未来展』の2015年秋開催の具体化へ

→最新の防災・減災、防犯、危機管理に関する製品・技術・サービスを展示・紹介する展示会の開催に向け、日刊工業新聞社と協議を進める。

■ 『ヘルスケア展』を2014年西日本国際福祉機器展と同時開催

→健康づくり、介護予防、医療など、健康長寿に関する様々な製品・技術・サービスを展示・紹介する「ヘルスケア展」を西日本国際福祉機器展と同時開催する。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・年末年始を中心に、市外・県外からの集客が見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、新球場と連携したスポーツ大会の検討などに着手。

会議・大会等

(1) 学会・大会のキーパーソンに対する誘致営業の強化

地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、キーパーソンの北九州市招致や、キーパーソンへの情報提供に特化したHP作成などに取り組む。

(2) 誘致支援事業の充実

MICE開催助成金の戦略的な運用、コンベンションボランティアの派遣、ユニークベニユーの開拓、アフターコンベンションの立案など、きめ細かな誘致支援活動を行う。

(3) 地域連携の推進

商工会議所や観光協会など、地域の文化・観光関連団体と連携し、魅力あるユニークベニユー・アフターコンベンションの開拓やコンベンションの共同誘致などに取り組む。また、関門都市連携による新たな誘致案件の共同開拓・PR、岡山・山形との広域連携などの取組みを進めていく。

(4) スポーツ大会の展示場利用の開拓

インターハイ弓道大会（平成25年度）において、大会関係者から、展示場の立地環境や施設インフラが高く評価され、スポーツ大会の会場として、新たな利用可能性が示された。ハード・ソフト両面の仕組みづくりを進め、展示場のスポーツ利用の開拓に積極的に取り組む。

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) 既存利用者の定着化及び復活

企業訪問や顧客データの分析による顧客ニーズを把握するとともに、利用頻度が低下している顧客などに対して、集客支援（協会自主事業との併催、客層が同様な他の民間催事との同時開催・共同PR、小倉駅のJAMビジョンによる広報など）を含めた提案営業を積極的に行うなど、利用の復活・定着化に取り組む。

(2) 新規利用者の開拓

従来の見本市・展示会の誘致に加え、新たな利用分野（試験会場、就職活動の会社説明会、企業のプライベートショー、サブカルチャー、コンサート・握手会等のイベントなど）の開拓を中心に、積極的な営業活動を展開する。また、イベント主催者となるテレビ局との連携づく

りを進める。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌の発行、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口連絡協議会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、小倉駅新幹線口振興連絡会（同地区に立地する11の企業・団体で構成）を中心に、「新幹線口エリアぐるりマップ」やホームページを活用した情報発信、にぎわいづくりイベントの共同誘致などに取り組む。

管理・運営

(1) サービスの向上

施設へのアクセス改善に向け、「フロアガイド」（新館、本館、会議場の位置関係や各会場までの導線を示した地図）の充実や新たな電子案内板の導入の検討を行う。また、Webを活用した利用料金シュミレーションシステム、有料のビジネスサポート提供サービスなど、利用者の声を踏まえた、新たなサービスを検討する。

(2) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(3) 耐震調査に基づく、展示場本館の改修準備の開始

耐震診断の調査結果（平成25年度）に基づき、改修の必要性がある部分について、会場の稼働状況を勘案しながら、耐震改修工事の準備（改修工事の着手時期や、利用者に対する周知と利用調整の検討、改修工事の設計など）を具体化する。

V 平成 26 年度予算

1 収支予算書（総括表）

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日（単位：千円）

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	6,840,000	2,160,000	8,723,000	0	17,723,000
展示場設備受贈益	26,593,000	8,398,000	0	0	34,991,000
特定資産運用益	4,066,000	0	0	0	4,066,000
受取会費	4,880,000	0	0	0	4,880,000
事業収益	312,727,000	274,984,000	0	0	587,711,000
受取補助金等	330,361,000	0	0	0	330,361,000
受取負担金	19,761,000	22,571,000	0	0	42,332,000
雑収益	4,990,000	13,285,000	0	0	18,275,000
経常収益計	710,218,000	321,398,000	8,723,000	0	1,040,339,000
(2) 経常費用					
事業費	772,586,000	198,242,000	0	0	970,828,000
管理費	0	0	14,520,000	0	14,520,000
経常費用計	772,586,000	198,242,000	14,520,000	0	985,348,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 62,368,000	123,156,000	▲ 5,797,000	0	54,991,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 62,368,000	123,156,000	▲ 5,797,000	0	54,991,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	60,095,516	▲ 63,060,484	2,964,968	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	20,000,000	0	0	20,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 2,272,484	40,095,516	▲ 2,832,032	0	34,991,000
一般正味財産期首残高	1,481,193,793	168,420,177	▲ 2,972,808	0	1,646,641,162

一般正味財産期末残高	1,478,921,309	208,515,693	▲ 5,804,840	0	1,681,632,162
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	9,169,000	0	9,169,000
一般正味財産への振替額	26,593,000	8,398,000	8,723,000	0	43,714,000
当期指定正味財産増減額	▲ 26,593,000	▲ 8,398,000	446,000	0	▲ 34,545,000
指定正味財産期首残高	650,841,174	0	859,759,614	0	1,510,600,788
指定正味財産期末残高	624,248,174	▲ 8,398,000	860,205,614	0	1,476,055,788
Ⅲ 正味財産期末残高	2,103,169,483	200,117,693	854,400,774	0	3,157,687,950

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 26 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	古賀敬三	常勤
理事	西田幸生	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 社会資本部長
〃	村上英治	(一財)九州産業技術センター 常務理事
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
監事	鈴木雅子	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（平成 25 年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約 相手	契約 方法	特命随意契約の 場合その理由
大規模コンベンション関連調整業務	4,095	本市唯一のコンベンション推進機関であり、現在実施中の誘致業務との連携及び主催団体等との幅広いネットワークを有し、調整できる団体は同協会以外にいない。	再委託なし				
ロボット産業マッチングフェア北九州会場運営業務	1,628	同協会が主催し、西日本総合展示場で開催予定の西日本機械展と合同で行うことにより、集客を高めることができる。当マッチングフェアの会場装飾についても、運営全体を考慮して、内容面、経費面でより効果的な実施が可能である。	再委託なし				
合計	5,723		合計	0			